

キセキレイ



2007年5月1日。活動日で澄川市有林に巣箱の観察をしようと早めに行き、駐車させた車を離れて歩き始めた私を嫌がって逃げた小鳥の数羽がいました。中の一羽が近くの枝に止まりました。よくよく見ますとこの森でかつて見かけたことのない鳥でした。胸前に黄色をあしらっていて美しいのです。挙動がセキレイに似ていたのでキセキレイか？ と思いました。帰宅して撮影した映像をズームングで見て確認しました。思ったとおりキセキレイでした。

東京で暮らしていた時分は多摩川の上流部でよく出会っていたのですが、澄川の駐車場のような水辺でもない所での出会だったので、別の鳥かと疑ったのですが、キセキレイに間違いありません。気をつけて見えますと、なにやら廃バスのどこかに営巣したいか、しているからしく、バスに近寄る私をマークする気配を示すのです。営巣してくれるとここ暫くは出会いを楽しめそうです。バスのどこかではなく巣箱に入ってくれると もっと嬉しいのです。しばらく様子を見てみましょう。



セキレイの仲間はハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイが普通に見られますが、共通の特徴はカラスに対して、他の小鳥とは違う反応を示します。つがいで果敢にカラスを牽制するのです。図体を比較すると太刀打ちできる相手ではないことは一目瞭然なのですが、けなげにもカラスに接近して追い払う行動をします。子を守る親の本能で片付けるのは簡単ですが、カラスが天敵であることを遺伝子に強く刷り込んでいるようであります。

分布は広く、地球的であります。日米、日露ともに渡り鳥条約指定種となっております。このことから日本全土に分布していることがわかりませんが、北海道では簡単に出会える鳥ではありません。私にしても久しぶりの出会いでした。場所がわれわれの根拠地澄川の森林であることが嬉しいではありませんか。

装いは写真でご覧のとおりオシャレであります。この時期は冬羽なので、ちょっと薄い色合です。夏羽はもっと全体に濃くなりますから、黒と黄色のコントラストが強くなり、より美しくなります。胸前から腹そしてお尻にかけての黄色のぼかし加減がなんとも素敵ではありませんか。いつもながら自然の芸術的美しさに感歎感歎。

巣箱観察ではカラ類やニューナイスズメが点検しにくるのを 4 個で確認しました。この時期まだ巣材を運んでいる様子はありませんのが点検が本格化したようです。まもなく巣づくりが始まるでしょう。